

立命館大学における研究高度化の取り組み

2008年3月6日

立命館大学

副学長(研究担当) 児島 孝之



1. 立命館の概要

■ 私立総合学園

2大学、4中学校・高等学校、1小学校を設置し、学生・生徒・児童数4万6千名を擁する総合学園

立命館大学

立命館アジア太平洋大学

立命館中学校・高等学校

立命館宇治中学校・高等学校

立命館慶祥中学校・高等学校

立命館守山中学校・高等学校

立命館小学校



2. 立命館大学の概要

京都市および滋賀県草津市に3キャンパスを開設。
10学部15研究科を設置し、本務教員数981名、学生数35,614名

■学部・大学院

① 衣笠キャンパス(教員数:505名 学生数:17,951名)

学 部

法学部、産業社会学部、国際関係学部、政策科学部、
文学部、映像学部

大学院

法学研究科、社会学研究科、国際関係研究科、
政策科学研究科、文学研究科、
応用人間科学研究科、言語教育情報研究科
先端総合学術研究科



② **びわこくさつキャンパス(BKC)(1994年開設)**

(教員数:427名 学生数:17,121名)

学 部

経済学部、経営学部、理工学部、情報理工学部

生命科学部(2008年4月設置)、薬学部(2008年4月設置)

大学院

経済学研究科、経営学研究科、理工学研究科、

テクノロジー・マネジメント研究科

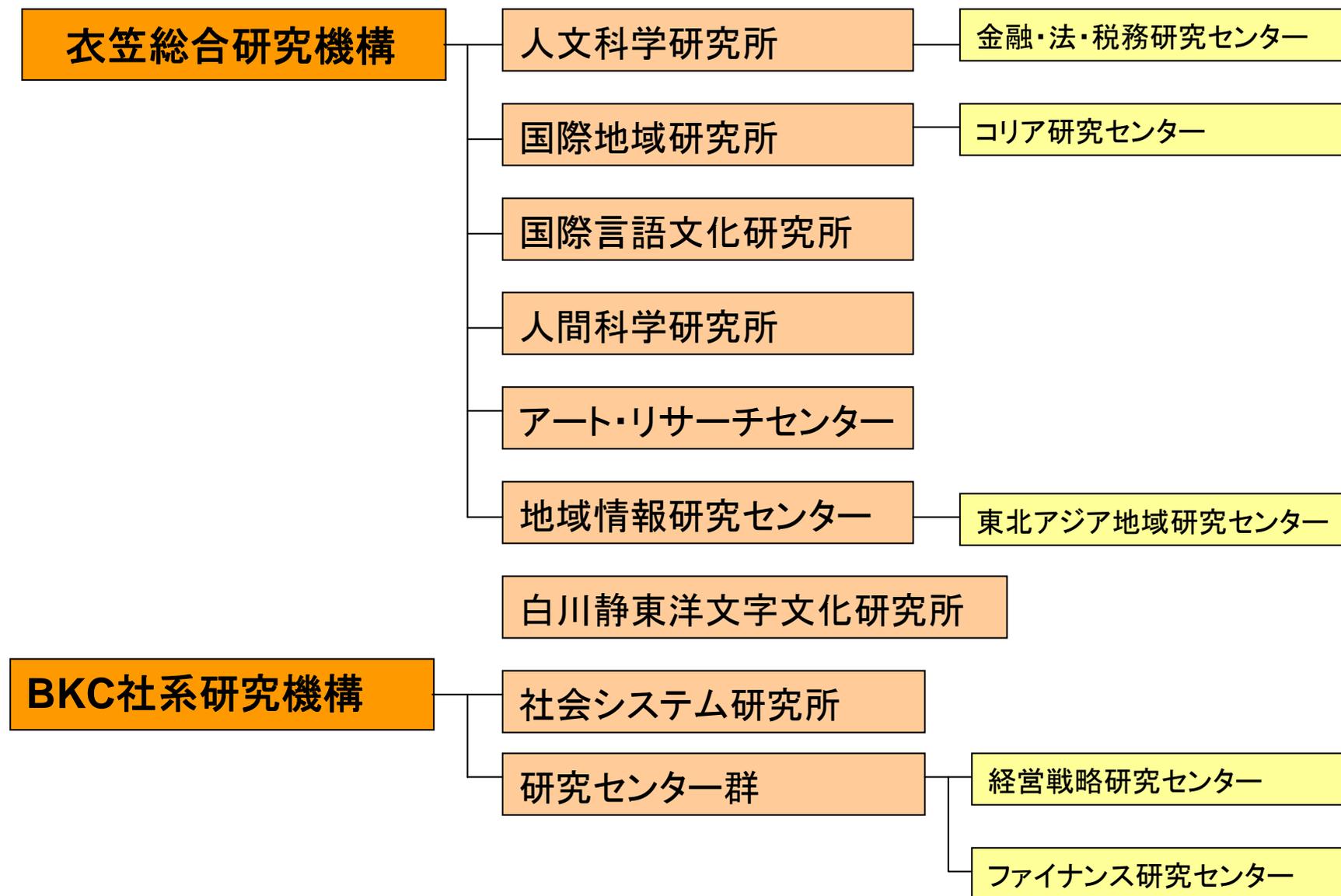
③ **朱雀キャンパス (2006年開設)**(教員数:49名 学生数:542名)

大学院

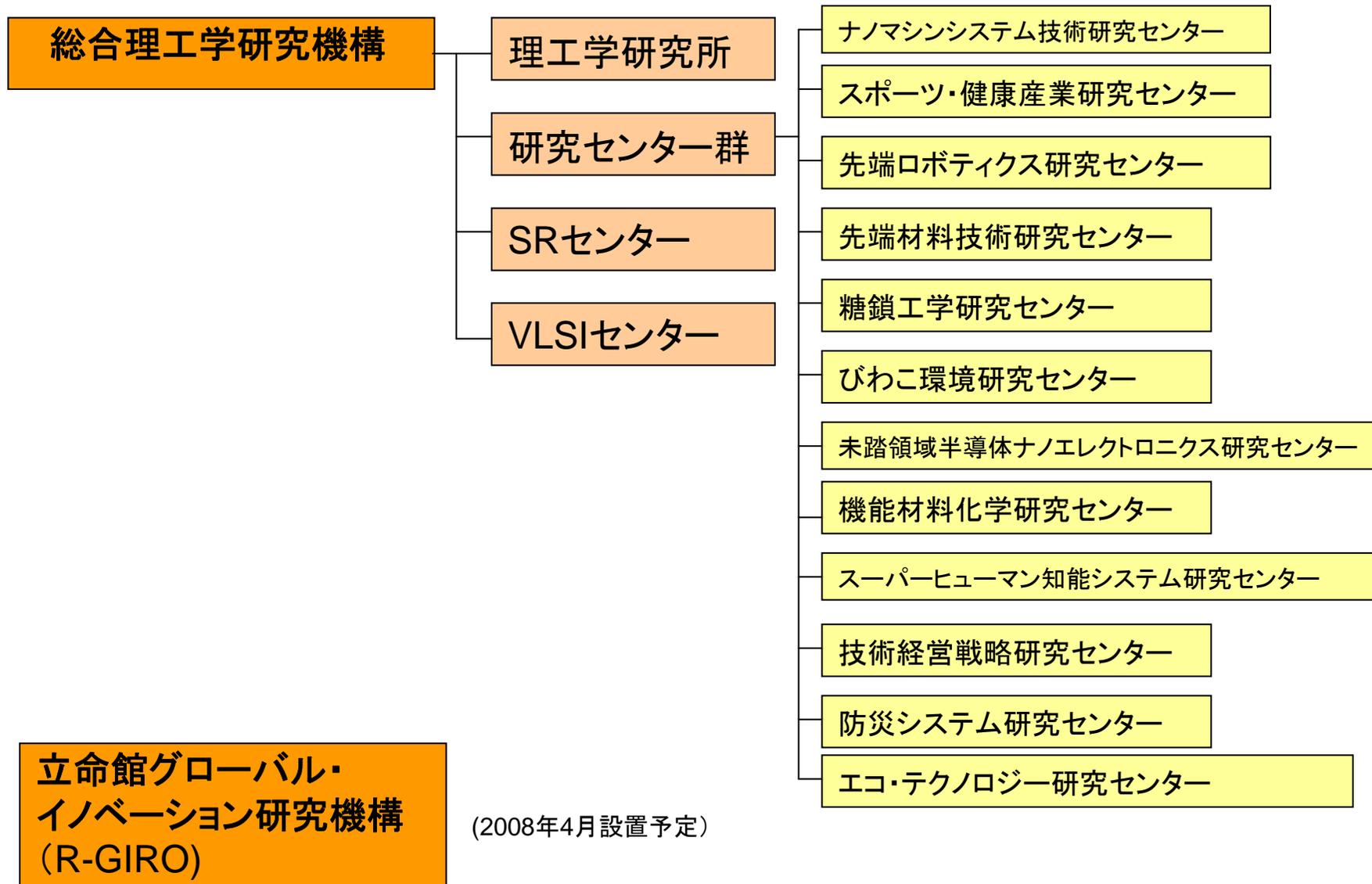
法務研究科、経営管理研究科、公務研究科



■ 研究機構・研究所・研究センター



■ 研究機構・研究所・研究センター(つづき)



立命館グローバル・イノベーション 研究機構の設立

(2008年4月設立)

(第一段階):

日本の緊急課題である地球資源回復技術に6領域に特化して
自然科学系での組織的研究取り組む

(エネルギー、材料資源、環境、食糧、安全・安心、医療・健康)

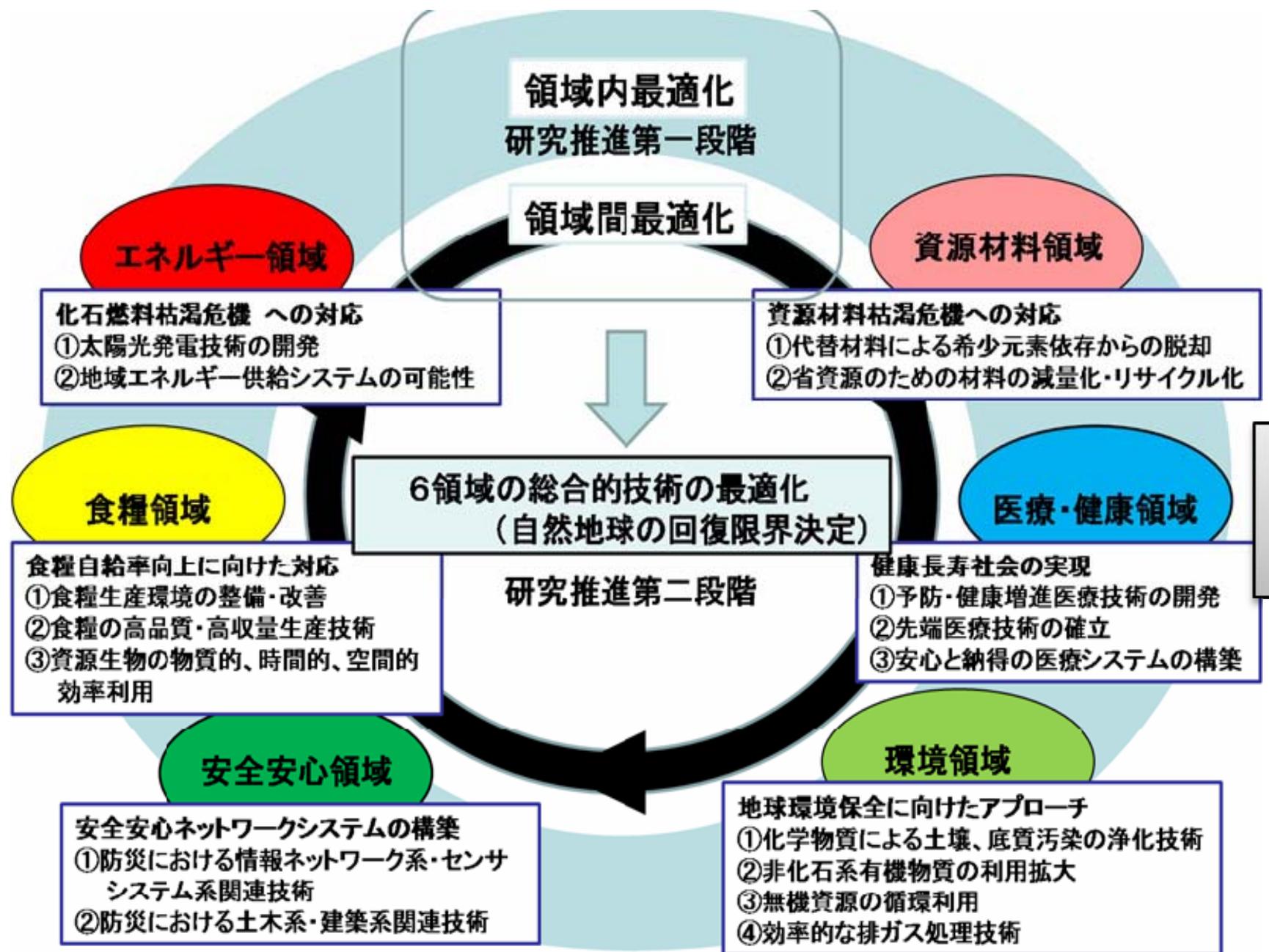
(第二段階):

6領域の技術を俯瞰し、技術融合の最適化により、地球資源の回復と消費の
両者がバランスする資源の“最適 準均衡値”の決定

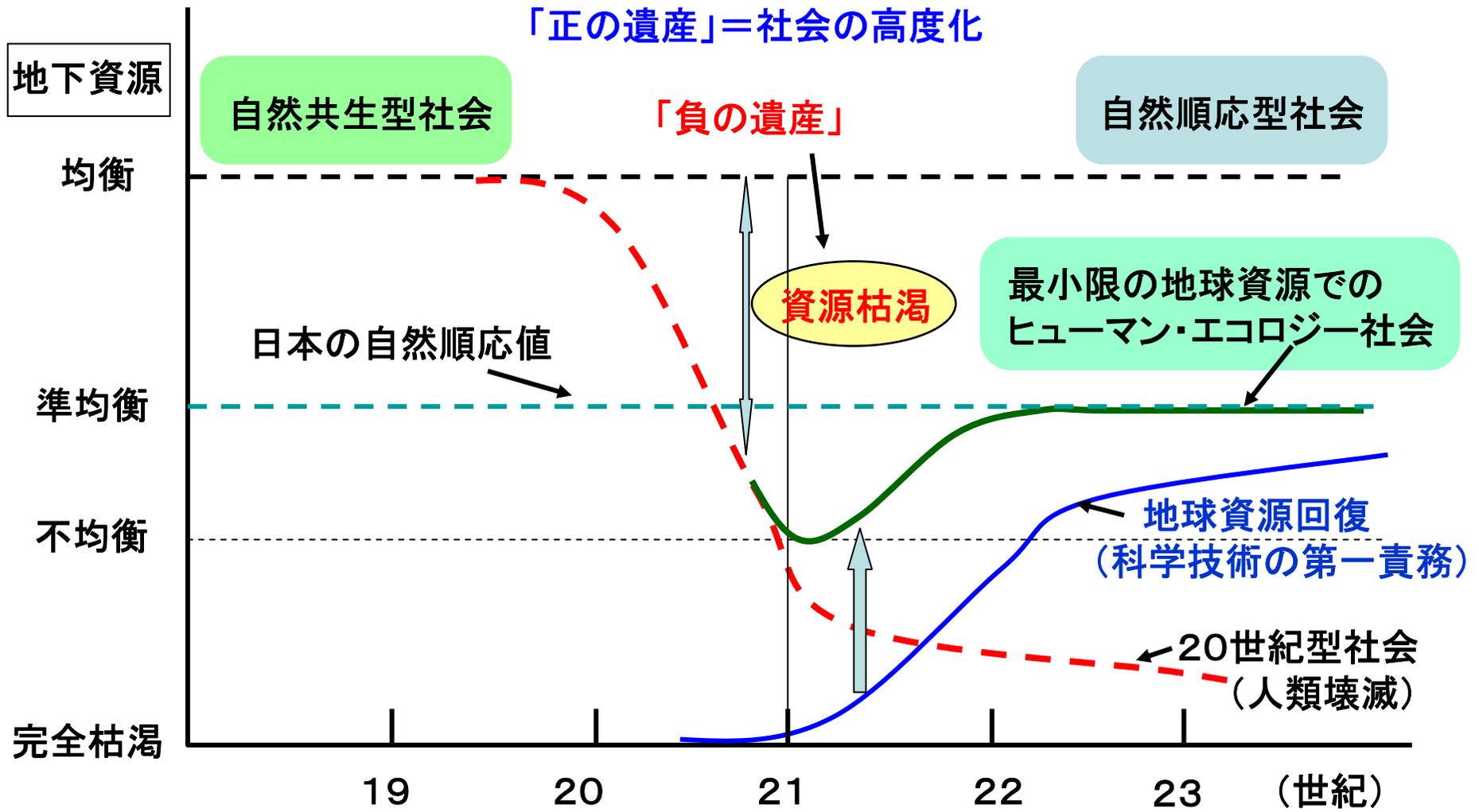
2009年度開始 (第二責務での科学技術の挑戦)

(第三段階): 自然科学系・人文科学・社会科学の異分野横断による協力体制で
自然循環値での (22世紀の) 日本人の生き方の理想像の構築

(22世紀のヒューマン・エコロジー社会構想)



20世紀の科学技術の発展



3. 立命館の学園・教学創造

■「立命館憲章」

学園に関係する者が、その理念と使命を共有し、それを社会に発信するため、2006年に制定

■「中期計画」による学園・教学創造

4カ年の基本戦略と方向を示す中期計画を策定

■「立命館 中期計画(2007-2010年)」

➡戦略目標:「世界に開かれたアジア太平洋地域の教育・研究拠点へ」

➡重点課題:「国際的通用性のある世界水準の教育の推進と特色ある研究拠点大学の地歩を固める」



4. 立命館大学研究高度化中期計画の策定

- 学園の「中期計画」における研究高度化の到達目標
 - ▶ 幾つかの分野で特色ある世界水準の研究成果を発信できる学園
 - ▶ 世界で活躍できる若手研究者を輩出できる学園
- 学園の「中期計画」を基礎に「立命館大学研究高度化中期計画(2006年度～2010年度)」を策定

《基本目標》

- (1) 基盤的研究と政策的重点研究とともに、現状より一段高い研究水準を追求し続けることにより、「世界水準の研究拠点」形成に取り組む
- (2) 特色ある世界水準の研究大学であり、かつ多様な国際ネットワークの中核である「グローバル・リサーチ・ネットワークワーキング・コア」をめざす

5. 立命館大学研究高度化中期計画

■具体的な達成指標－5つの指標設定－

- ▶研究業績の量と質の飛躍的向上
- ▶世界のリサーチパートナー形成
- ▶学外資金の積極的導入(科学研究費補助金獲得の目標設定)
- ▶課程博士輩出目標の設定
- ▶「世界水準の研究拠点」の確立

■実施施策の重点－6つの柱－

- ▶研究環境、研究体制整備
- ▶研究と大学院教育の一体的連携の強化
- ▶研究の国際化推進
- ▶萌芽的研究の支援と研究活動を活性化させる仕組みの構築
- ▶研究業績の公表と評価の仕組みの確立
- ▶政策的重点研究拠点の強化

6. 「研究高度化中期計画」に基づく具体的な取り組み

■ 研究高度化推進諸施策(学内制度の活性化と充実)

- ▶ 学内提案公募型研究推進プログラム
- ▶ 研究専念教員制度
- ▶ ポストドクトラルフェロープログラム
- ▶ 研究の国際化推進プログラム
- ▶ 学術図書出版推進プログラム
- ▶ 博士課程後期課程研究力強化プログラム
- ▶ 学外研究員制度の運用柔軟化

■ 研究活動の社会性の高める取り組み

- ▶ 研究倫理指針の策定と研究倫理委員会の設置
- ▶ 研究成果の公表－研究者DBの充実
- ▶ 研究評価のあり方の検討



7. 研究活動の評価に関わって

■ 研究成果や研究者情報の集積

- ▶ 本学の公式研究業績公開ツール「研究者DB」に情報を集積
- ▶ 研究者DBの更新(2007年4月稼動)
- ▶ DB登録率向上にむけた事務局支援の強化
- ▶ 機関リポジトリの具体化(図書館)

■ 「研究高度化推進施策に関わる審査委員会」の設置

- ▶ 研究高度化推進諸施策の効果を高めるために、審査委員会による選考・決定
- ▶ 委員長を副学長(研究担当)、委員長代理は研究部長および研究部副部長とし、委員は学長が委嘱

8. 研究高度化推進施策に関わる審査委員会

■ 委員会の任務

学内の研究高度化推進制度・プログラム審査・評価

■ 委員会の構成

- (1) 副学長(研究担当): 委員長
- (2) 研究部長: 委員長代理
- (3) 研究部副部長: 委員長代理
- (4) 優れた研究業績、見識を有する本学教員

※その他、必要に応じて学外有識者より審査のための意見等を聴取できる。

2007年度委員会 計17名

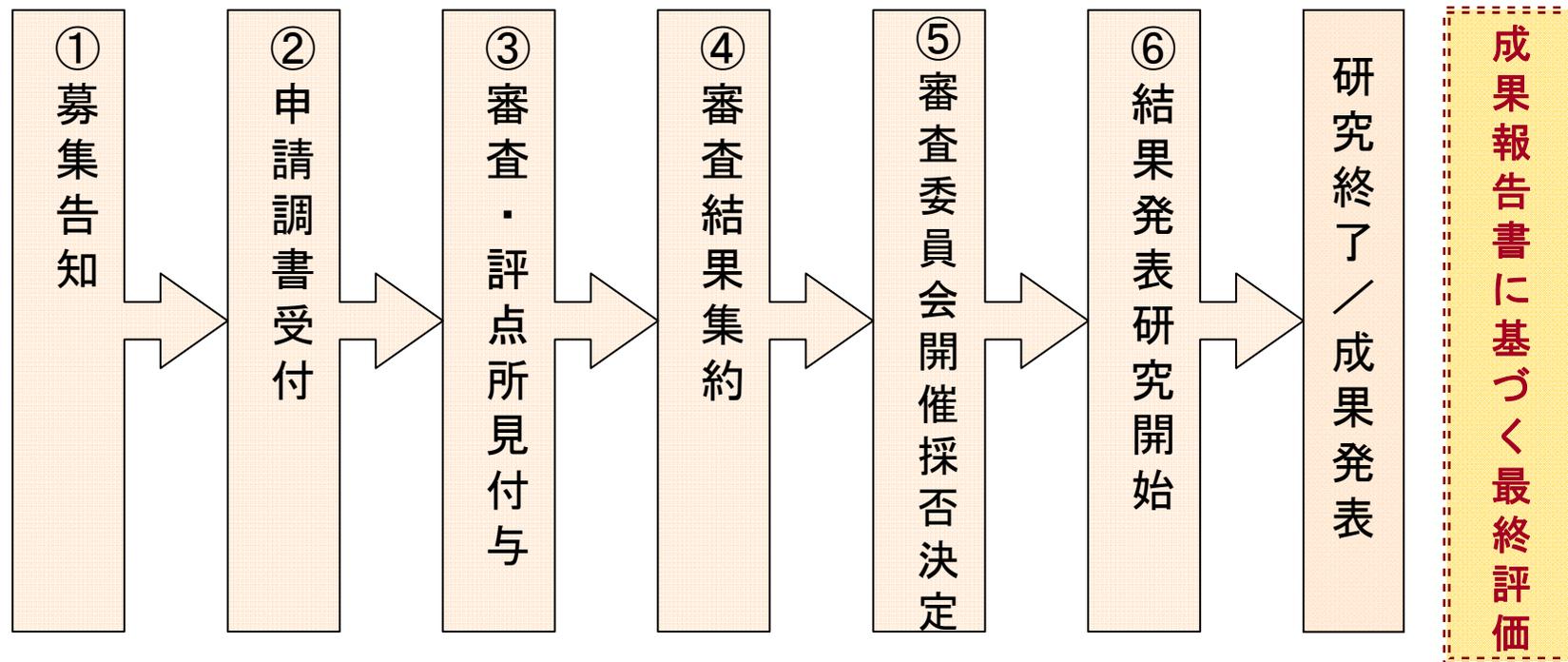
■ 研究分野別委員会の開催

委員会は、必要に応じて、研究分野別の委員会を開催
(分野別委員会委員長は、各委員長代理が担当)



9. 研究高度化推進制度の審査・評価

【審査・評価フロー】



募集要項による

所定調書様式にて

5段階評点付与
所定審査基準

必要に応じ分野別開催

研究費配分額決定

執行基準に基づく支出

研究者データベース登録

9. 研究高度化推進制度の審査・評価(つづき)

【審査シート(サンプル)】

No.	代表者	研究課題	①目的 必要性	②計画 方法	③発 展性	④成果 業績	⑤総合 評価	審査所見
1	●●○○	×××の研究	5	4	3	4	4	*****
2							
3							

【評点基準】(①~④)

評価 区分	評価基準
5	大変優れている
4	優れている
3	標準的である
2	やや不十分である
1	不十分である

【評点基準】(⑤)

評価 区分	評価基準
5	非常に優れた研究課題であり、最優先で採択すべき
4	優れた研究課題であり、積極的に採択すべき
3	優れた研究内容を含んでおり、採択してもよい
2	研究内容等に不十分な点があり、採択見送りとすべき
1	研究内容等に問題があり、採択に値しない

10. 研究高度化審査委員会に関するまとめ

■ 審査委員会の設置に至った「きっかけ」

- ▶ 学内研究支援制度の見直し
- ▶ 制度効果を高めるための審査体制の充実(審査の一元化)
- ▶ 多様な研究分野に対応する審査のあり方
- ▶ 透明性の高い審査体制の追求

■ 運用にあたって工夫した点

- ▶ 評価者の人選(研究分野のバランスなど)
- ▶ 研究分野別委員会の設定(人文社系・理工系・融合系)
- ▶ 審査基準の事前公開
- ▶ 審査結果のフィードバック(採択結果のWEB公表・不採択課題の理由通知)

■ 実施上の問題点・課題

- ▶ 審査(評価)基準の明確化
- ▶ 評価体制の適正性への検証
- ▶ 評価者との調整に要する事務局労力の省力化(日程調整・審査資料準備等)

11. 研究活動の評価に関わる今後の課題

■ 研究高度化中期計画の実施による効果測定・評価

- ➡ 5つの達成指標に照らした到達度の検証
- ➡ 研究高度化中期計画課題の評価指標の開発
- ➡ 分野別の研究評価指標の開発
- ➡ 研究高度化推進諸施策の効果測定とそれを受けた制度見直し

■ PDCAサイクルの確立

- ➡ 本中期計画による到達度を踏まえた次期研究高度化政策の策定

■ 研究高度化審査委員会の今後のあり方

- ➡ 審査(評価)体制の充実・強化

ご静聴ありがとうございました。

